

## 天声人語

教え子の一人が驚いていた。

「あんなに激しい口調で語る先生は見たことがない」。憲法学界の重鎮、京大名誉教授の佐藤幸治さん(78)である。6日、法

学や政治学の専門家らがつくる

「立憲デモクラシーの会」のシンポジウムで講演した▼省庁再編などの行政改革や裁判員制度を導入した司法改革に携わった。学界には政治に距離を置く人も多いが、佐藤さんは自民党政権の内側から改革を進めてきた。しかし、安倍政権の姿勢には危機感が募るようだ▼講演で憲法改正の必要性を一概に否定はしないと述べた上で、こう強調した。「憲法の根幹を安易に揺るがすようなことはしない」という賢慮が必要であると強く思う。

今国会で議論が続く安法制が念頭にあるのだろう▼9条の下で集団的自衛権の行使は認められず、その憲法解釈を便宜的に変更することも許されない。こうした歴代内閣の立場を安倍政権は打ち捨てた。まさに「根幹」、憲法で政治権力を縛るといふ立憲主義そのものが危機に瀕している▼政権は異論に耳を貸さない。

「賢慮」の気配もない。佐藤さんは怒りを隠さない。英米独でも憲法の根幹は変えていけないのに「日本はいつまでそんなことをぐだぐだ言い続けるのか。本当に腹立たしくなる」▼立憲主義は長い歴史を通じ人類が学びとった深い叡智——。

佐藤さんの持論だ。自由と人権を希求した人類の格闘が憲法には刻印されている。それを失わないために今、私たちが賢慮を取り戻さなければならぬ。